

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	ジョグジャカルタのショップハウスにおけるプライバシー・コントロールに関する研究
Title(English)	Study on Privacy Control in Shop Houses in Yogyakarta
著者(和文)	LYADEWI ANGGRAINI
Author(English)	Lya Dewi Anggraini
出典(和文)	学位:博士(学術), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第9344号, 授与年月日:2013年9月25日, 学位の種別:課程博士, 審査員:大野 隆造,篠野 志郎,奥山 信一,中村 芳樹,那須 聖
Citation(English)	Degree:Doctor (Academic), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第9344号, Conferred date:2013/9/25, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	審査の要旨
Type(English)	Exam Summary

(博士課程)

論文審査の要旨及び審査員

報告番号	甲第	号	学位申請者氏名	LYA DEWI ANGGRAINI	
論文審査 審査員		氏名	職名	氏名	職名
	主査	大野隆造	教授	那須 聖	准教授
	審査員	篠野志郎	教授		
		奥山信一	教授		
中村芳樹		准教授			

論文審査の要旨 (2000 字程度)

本論文は、「Study on Privacy Control in Shop Houses in Yogyakarta (ジョグジャカルタのショップハウスにおけるプライバシー・コントロールに関する研究)」と題して、以下の5章より構成されている。

第1章「Introduction」では、本研究の背景として、インドネシアのジョグジャカルタにおける店舗と住居が併設されたショップハウスについて、中国系およびジャワ島系住民の居住地域別に、その成立の経緯を概観するとともに、商業行為と居住行為が共存する空間におけるプライバシーの問題を指摘し、住民の意識および空間の設えについての実態調査を通して、日常生活における様々な行為とそれに求められるプライバシー・レベルとの関係、およびそれぞれの行為を行なう空間の選択傾向を吟味することにより、実際にプライバシーがどのように調整されているかを明らかにする目的を明確にしている。

第2章「Survey Site and Method」では、ジョグジャカルタにおける中国系およびジャワ島系住民の居住地域において予備調査として行ったアンケート調査の結果、ショップハウスの店主が実際には居住していない場合もあること、また住宅の正確な平面図の取得が困難であること、さらに意識調査で一般的に用いられる概念的な心理尺度上にマークさせて直接プライバシー意識を問う調査方法では信頼性に問題があることから、本調査における対象としては、実際に店主が居住しており、住宅内に立ち入って観察記録する許可が得られたショップハウス30戸とし、またプライバシー概念が明確でない住民に対する調査方法としては、できるだけ具体的な状況を示して回答を求める新たな方法を考案して面接による調査を行うこととしている。すなわち、ショップハウスにおける様々な行為ごとに、他人、顧客、家族など店主との親密さの程度の異なる人による視覚的、聴覚的および身体的な侵入に対して受け入れられるか否かの判断を求めて、間接的にその行為に要求されるプライバシー・レベルを判定する方法を用いて調査することの必要性を明らかにしている。

第3章「Relationships between Activity and Privacy」では、面接調査において住民によって自由にあげられたショップハウスにおける様々な行為から、共通性の高い行為16種を選定し、それぞれの行為に要求されるプライバシー・レベルを親密度の異なる人の侵入に対する許容性についての回答

結果から序列付けを行っている。中国系およびジャワ島系住民を別々に分析した結果、聴覚的プライバシーについては中国系住民がほとんど問題にしていな傾向が見られたものの、視覚的、身体的なプライバシーの要求については両者ともほぼ同様の傾向を示し、ともに身体的な侵入に対するプライバシー感覚の方が視覚よりも敏感である傾向を明らかにしている。

第4章「Spatial Depth Analyses and Required Privacy」では、ショップハウスの入り口から内部の諸室までの空間的奥行によるプライバシーの調整の働きを検証すべく、スペースシンタックス理論を援用して諸室の空間的奥行を算出し、第3章で求めたそれらの部屋で日常的に行われる行為に要求されるプライバシー・レベルの関係を介して、空間的奥行とプライバシー・レベルとの関係を吟味したところ期待したような高い相関は得られなかったため、スペースシンタックス理論が明確に区切られた部屋間の移動のみにより奥行を評価し、この地域のショップハウスで見られる家具などの付加的要素による緩やかな仕切りが評価されなかったためと解釈し、これらの影響を取り入れた新たな空間的奥行の評価方法を提案している。そして、この方法による空間的奥行とプライバシー・レベルとの間により高い相関関係を見出している。住宅平面以外で空間的奥行を生み出す要素として、中国系住民は廊下や階段、一方ジャワ島系住民では家具やカーテンなどの設えによる場合が多く、方法による差異は見られるものの、いずれの住民も基本的に入り口からの空間的奥行によって日常の生活行為の場を選択することによりプライバシーの調整を行っていることを明らかにしている。

第5章「Conclusions」では、各章で得られた成果を総括している。

以上を要するに、本論文は商業行為と居住行為が共存するジョグジャカルタのショップハウスにおいて、日常の生活行為がそのプライバシーの要求レベルに応じて、入り口からの空間的奥行によって調整されていることを、住民の意識および空間の設えについて綿密な現地調査によって明らかにしたもので、学術的な貢献が大きく、博士（学術）の学位論文として十分な価値があるものと認められる。